



2023.6.20
第181号

発行
村議会 支会 支会
町議 支支
市協 津支
県委 麻沼
島教連 北耶両

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

続けるということ



会津教育事務所
所長 吉川 武彦

先日、職場での自己紹介時に職務を好きなオーケストラに例え、「一人一人が技を磨き、ある時はソロで、ある時はパートや全員で豊かな響き（職場）を創っていきましょう」と話したところ、嬉しいことに皆さんが関心を示してくださいました。

少し昔話をします。

幼少の頃、両親曰く「音楽は好きだけで自分たちは苦手だから、子どもには何か習わせよう」と、私にバイオリンを習わせました。しかし当時、外で遊ぶことが大好きだった私は、ほとんど練習をせず、レッスン日にその場で練習するという有様でした。先生からは「ここで練習するのなら、もうやめ

なさい。いやいや弾く必要ないでしょ」と叱られたのを覚えていま

す。何度もやめたいと思いましたが、親の手前、何とか中学生まで続けました。そんな私ですが高校で管弦楽部に入部すると、人と合わせる楽しさや大曲を弾ける喜びに気付いていきます。有名な交響曲や協奏曲が演奏できること、皆で合わせるとうまくなった気分になれることが嬉しく、嫌いだっただけで終わらないうまくなった気分で楽器練習にも夢中になりました。一人ではできない曲が仲間となることができる、楽器が違っても響き合うと楽しい、「人と合わせる素晴らしさ」にどんどん魅了されたのです。

おかげで大学でもオーケストラを継続し、今でも仲間と室内楽をして楽しんだり演奏会を開いたりしています。

また、音楽は自身の仕事の糧にもなりました。教員免許の取得、音楽の授業実践、行事や部活動での合奏指導等々です。さらに音楽関係の原稿や研究物まで書かせていただくことにも繋がりました。「あの時やめなくてよかったな」と、つくづく思います。

ここまで記すと「継続は力なり」という格言が思い浮かびますが、そんな格好いいことを言うつもりはありません。ただ、続けてきた、続けさせてもらってきたおかげで、自身の「見方・考え方が変わり、「嫌い」が「好き」になり、「やりたくない」が「やりがい」に変わってきたことは確かです。「続けるということ」そのものが自身の人生に影響したといっても過言ではないでしょう。

ここまで音楽を続けさせてくれた親に感謝、仲間へ感謝、仕事に感謝しながら、最近弾いていないバイオリンに久しぶりに触ってみようかな…。

管理関係重点事項

令和五年度「会津教育事務所推進プラン」の視点⑥「持続可能な教育環境づくり」の取組により、教員の力、学校の力が最大となるよう、域内市町村教育委員会や学校、地域、関係機関との連携の充実を図りながら管理業務を推進してまいります。

1 教職員の心身の健康保持や児童生徒と向き合う時間・自己研鑽の時間を確保するため、管理訪問等の指導助言により「教職員多忙化解消アクションプランII（改訂版）」に基づく取組の推進を図ります。

○ アクションプランII「実践モニタリング校支援事業」の成果の普及に努めるとともに、各学校の状況に応じた業務改善の取組を支援します。

2 学校全体の教育力向上を図るため、校長研修会等において研修を充実させ、校長によるチームとしての学校マネジメントが機能するよう支援します。

○ 学校の指導体制の充実及びチーム力の強化に資する指導助言を行い、校長のリーダーシップによる学校マネジメントの強化に努めます。

3 域内服務倫理対策会議等、様々な機会を捉えて管理職としての危機管理意識の向上や教職員の倫理観・使命感の高揚を図る取組を支援します。

○ 「信頼される学校づくりを職場の力で（令和五年四月改訂版）」等の活用促進や、危機管理に係る情報提供に努めます。

会津教育事務所は、学校課題の解決が図られるよう、市町村教育委員会と連携を密にして人事務を推進するとともに、学校・家庭・地域が一体となって人間性に満ちた人材の育成に努める「会津の教育」を支援してまいります。

社会教育関係の重点事項

～家庭の教育力・地域の教育力の向上を目指して～

1 家庭教育の推進

我が子が突然「今日は学校に行かない」と言ったらどうしますか。地域家庭教育推進会津ブロック会議では、域内そして全国的な課題である「不登校」について、3年次計画でPTA代表者や家庭教育に携わる方と協議してきました。

今年度はまとめの年として、家庭教育に役立てていただけるよう、子どもとの普段からの関わり、子どもの変化に気づいた時の関わり、そして不登校に関する学校や専門機関の連携等をまとめたリーフレットの作成を進めており、今後本所HPでも御紹介します。

また、家庭教育に関する研修会の開催や不安や悩みを抱えている家庭に対し、個別かつ継続的な支援を行う「家庭教育支援チーム」の設置も促進し、家庭教育支援の充実を図ってまいります。

2 地域と学校との連携・協働の推進

地域における教育力の低下や家庭の孤立化、学校を取り巻く問題の複雑化等の課題に対して、社会総がかりで対応することが求められています。そのため、地域と学校がパートナーとして連携・協働する組織的・継続的な取組が必要となります。さらに、学習指導要領の目指す「社会に開かれた教育課程」の実現のため、学校は地域と連携・協働を一層進めていくことも求められています。

会津域内の各地域の実態や特色を生かした取組が一層充実されるよう関係者間の理解促進、連携強化のため研修会を開催しますのでぜひ御参加ください。

※各研修会の内容や申込方法等については、随時本所HP等で御紹介します。

- **地域連携担当教職員等研修会** (対象：教員、教育行政に関わる方等)
期日 令和5年6月23日(金) 会場 会津若松市北会津公民館
- **家庭教育支援地区別研修会** (対象：家庭教育に関心のある方等)
期日 令和5年7月27日(木) 会場 会津若松市北会津公民館
- **地域学校協働研修会** (対象：地域学校協働活動推進員等)
期日 令和5年8月3日(木) 会場 会津若松市北会津公民館
- **家庭教育支援チームスキルアップ研修会** (対象：家庭教育支援チーム等※全県研修)
※詳細が決まりましたら家庭教育支援チーム等へお知らせします。



令和5年度 会津教育事務所 指導の重点【前期】

会津の強み【令和4年度の学校訪問や各校の学力向上の取組、各種研修会協議から】

- 1 児童生徒の興味関心を高め、思いや問いを引き出しながら「めあて」を設定する授業が多い。
- 2 ねらいを達成させるために児童生徒の思考の時間を確保し、様々な言語活動やICT機器等を活用した活動を取り入れ、考えを広め深めさせようとする授業が多く見られる。
- 3 学びを支える学級集団づくりに取り組むとともに、個に応じた補充的な学習の機会を設けている学校が多い。
- 4 家庭学習の習慣が身に付き、計画的に家庭学習に取り組む児童生徒が増加している。
- 5 学校ぐるみでいじめや不登校の未然防止、及び将来的な社会的自立を目指した子どもに寄り添った指導が行われている。

会津の課題【令和4年度全国学力・学習状況調査結果、学校訪問等から】

- 1 全国平均正答率を見ると、国語はやや下回り、算数・数学と理科は下回っている。
- 2 自分の考えや意見を言葉で説明したり、記述したりすることが苦手な児童生徒が多い。
- 3 不登校が年々増加傾向にある。(1,000人あたりの出現率が全国・県平均を上回っている。)
- 4 平日にテレビゲーム(スマホを含む)等を行う時間が増加し、肥満傾向児の出現率が高い。

人間力に満ちた人材の育成～学びをつなぐ・育ちをつなぐ会津の教育～

確かな学力

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現
- 2 学習の連続性を持たせる基盤づくり
- 3 学力向上策の組織的な推進による授業改善
- 4 カリキュラム・マネジメントの充実

居場所づくりと絆づくり

- 1 不登校の未然防止と早期対応
- 2 いじめ見逃しゼロ
- 3 情報モラル教育の充実
- 4 心に響く道徳教育

共に学び、共に生きる教育

- 1 校内支援体制の充実
- 2 ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

健やかな体

- 1 体力向上と健康推進
- 2 教育活動全体による食育の推進

育ちをつなぐ学び

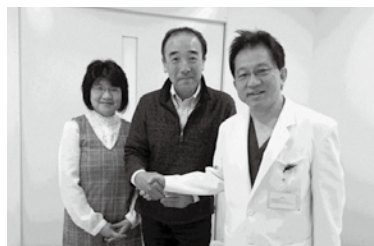
- 1 キャリア教育の推進
- 2 幼児教育の充実

出逢いと人とのつながり

昭和村教育委員会教育長 栗村 良輔 氏

私は、心臓疾患のために早期退職を余儀なくされ、定年退職まで4年を残して教育現場から身を引くことになった。全く主だった症状がなかった当時37歳の定期健康診断で弁膜症が見つかり、専門医から「60歳まで手術をしないと徐々に心不全に陥り命を落とすことになる」と宣告され愕然とした。

57歳で「スーパードクター渡邊 剛氏」と出逢い、かけがえのない「命」をいただいた。彼のHPを開くと「紹介状は不要、直接メールをください。」と。テレビでも紹介されていた有名な心臓外科医なので即答の返信を期待をしないで、その夜PCに向かい今までの経過をメールで送信し就寝した。翌朝に彼からの返信を見て驚いた。「弁膜症の手術となれば私が担当します。」年間2,000執刀をする医師本人からのメールだった。受診の結果、大動脈弁閉鎖不全症と診断され、上行大動脈瘤も見つかった。機械弁と人工大動脈置換という高難易度の手術も約1時間30分で無事終了。手術から2週間後に退院し、術後7年目を迎える。



1年間のリハビリを終え、以前会津教育事務所勤務で共に仕事をした湯川村三澤村長に

声をかけていただき、4年間、湯川村で社会教育主事として社会教育の分野で総合行政をめぐした「村の絆づくり」事業を展開した。その時に大学の先輩でもある日本相撲協会理事であった親方に協力を得て、3年間「相撲部屋の夏合宿」を会津で初めて実施した。昨年3月末、4年間の節目で湯川村を退職し現在は昭和村舟木村長のもとで「教育行政」の仕事についている。村長との出逢いは40年前の玉川大学の研修会であり、その後も会津教育事務所の公民館訪問でお世話になっていた。



「命」を授けていただいた医師、「絆づくり」に協力していただいた親方及び力士、雇用して下さった2名の村長、現職時代の教え子達、同僚、多くの先輩方との素敵な数えきれないほどの出逢いに恵まれた。そのつながりは永遠であり、私にとって貴重な「宝物」で決して途切れることはないと思う。

現在、昭和村に赴任して1年になろうとしている。ここ昭和村でまた多くの出逢いがあり、その「出逢いと人とのつながり」を大切にして教育行政に邁進していきたい。

我がまちからの情報発信

磐梯町教育委員会

「明神舞」の復元披露に向けて

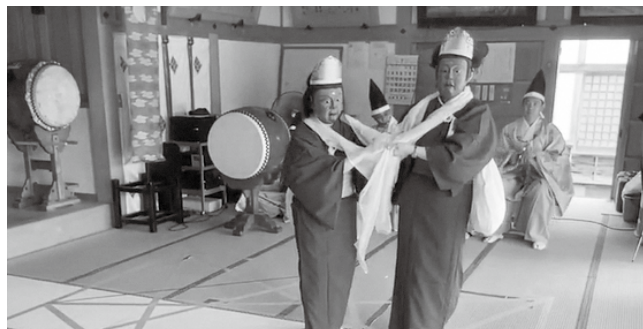
会津地方の仏教文化の礎を築いた恵日寺は、近世には会津藩の祈願寺として多くの年中行事が行われていました。その多くは、江戸時代中期に中興の実雅という住職によって整備されたもので、彼が残した「陸奥国会津磐梯山恵日寺寺役記」という年中行事記録に見ることができます。その中の一つに「明神之舞」と呼ばれ、旧暦の2月15日にその年の天候の順調や五穀豊穡を祈願して本尊である薬師如来に奉納された舞がありました。この舞は、嘉永3年(1850)藩主松平容敬が寺へ立ち寄った際にも披露され、容敬がその時の様子を記した舞のスケッチも残されています。

現在この舞は途絶えてしまって、いつ頃まで行われていたかも分かりません。したがって、現段階では約170年前のこの記録が、遡ることができる最後の明神之舞ということになります。

磐梯町では今から6年ほど前、新たに「明神舞」としてこの舞の復元を試みました。かつて「巫女舞」の復元にもご尽力いただいた、県の文化財保護審議員の懸田弘訓先生にご依頼し、「寺役記」に記された舞之次第や、容敬のスケッチをもとに所作や装束を復元しました。中でも苦労したのは囃子です。所作とは異なり譜面などがないことから、ど

ういう節回しなのかは結局のところ分からずじまいで、今のところは「巫女舞」と同じ囃子を用いています。その点では研究の余地はまだ残っていると言えるでしょう。現在は地元住民の方々によって継承に取り組んでいただいておりますが、予期せぬコロナ禍に巻き込まれ、大勢の面前での披露機会を逸したまま数年が経過してしまいました。

そのような中、本年9月に開催される福島県芸術祭への出演の推薦を受け、初めて多くのみなさまの前で披露することとなりました。我が町の新たな民俗芸能の取組が、ようやく一歩を踏み出そうとしています。



令和5年度 会津教育事務所推進プラン

強み	域内の現状	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、協働的な学びを推進している学校が多い。 ○ 子どものよい点や可能性を見いだし、学びを支える学級集団づくりを積極的に行っている。 ○ 各市町村の社会教育が充実し、地域学校協働本部の設置及び学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の導入が進んでいる。 ○ 特別支援学級や通級指導教室における特別の教育課程編成の工夫や自立活動の指導の充実に取り組んでいる。 ○ 体力・運動能力調査結果分析による運動身体づくりプログラムの全校実施(小)、授業内外の補強運動の実施(中)など、組織的な取組により、体力向上が図られている。 	<p>域内の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 小・中学校ともに学力調査の平均正答率が低い。 ● 話し合いのコーディネートが十分でない授業、まとめや振り返りの時間を確保していない授業が見られる。 ● 不登校数が小学校で増加傾向にあり、小・中学校ともに出現率が全国・県平均よりも高い。 ● 地域社会における支え合いやつながりの希薄化により地域の教育力が低下している。 ● 個別の教育支援計画や個別の指導計画を校内で共有し、日々の指導・支援に十分に活用されていない。 ● 肥満傾向児出現率が県平均より高い。

人間力に満ちた人材の育成 ～ 学びをつなぐ・育ちをつなぐ会津の教育 ～

<推進ビジョン> 域内の市町村教育委員会、小・中・高等学校長代表者会をはじめとする地域や関係機関と連携し、学校・家庭・地域が一体となって、人間力に満ちた人材の育成に努めます。

※人間力に満ちた人材…学習や経験から学んだ様々な力を生かして、自らの道を切り拓き、社会に貢献することができる人材

視点① 「学びの変革」の推進【施策1・2・6】

- 域内の実態を踏まえた「指導の重点」を前期・後期に作成し、学校訪問や各種研修会で「確かな学力」の向上を図るための支援を充実させます。
- 「ステップアップAizu」を開催し、具体的・実践的な授業の進め方や学習方法等の講義・演習を行い、教員の指導力向上を支援します。
- 地区別研修会でICT活用研修の充実を図り、効果的に活用した授業を周知、普及します。
- 各校で個に応じた指導の実現に向け、全国・県学力調査の分析・活用方法に関する研修を実施します。

視点② 人間性・社会性の育成【施策3】

- 域内シンポジウムや教育相談研修会等で不登校等の未然防止・初期対応の研修を充実させ、学校の教育相談体制づくりを支援します。
- 道徳教育の充実を図るため、道徳推進協議会等で「考え、議論する道徳」授業の成果を普及します。
- 実践研究発表会でキャリア教育研修において、「キャリア・パスポート」を効果的に活用した事例の普及を図ります。

視点③ 健康・安全に関する指導の充実【施策5】

- 学校訪問等で肥満等の健康課題に対応した実践事例を提供し、保健・安全教育の充実を図ります。
- 「自分手帳」活用についての研修会で有効な事例を周知し、健康マネジメント力の育成を支援します。
- 各種研修会や学校訪問等において、各校の体力向上推進計画の見直し・改善を助言し、体力向上と運動習慣の定着を支援します。

視点④ 家庭の教育力・地域の教育力の向上【施策3・4・5】

- 家庭教育支援の充実を図るため、家庭教育支援者の養成及びスキルを高める研修会を実施し、「家庭教育支援チーム」の設置も促進します。
- 関係者間の連携強化を図るため、教職員及び社会教育関係者等を対象に「地域学校協働研修会」、「地域連携担当教職員等研修会」を開催します。
- 地域の実態に応じた、市町村公民館職員等を対象とした公民館訪問や社会教育研修会を開催します。

視点⑤ 切れ目のない支援体制の整備【施策3】

- 校内支援体制の充実と教員の専門性の向上を支援するため、特別支援教育研修会等の充実を図ります。
- 合意形成に基づく「個別の教育支援計画」の作成・活用・引き継ぎ、合理的配慮の提供によるきめ細かな児童生徒支援の充実を図るため、各園・校のニーズを踏まえた相談支援・研修支援を実施します。
- ユニバーサルデザインの視点による学級経営や学習指導の研修会を開催し、一人一人のニーズに応じた実践力の向上を支援します。

視点⑥ 持続可能な教育環境づくり【施策2】

- 教職員の心身の健康保持や児童生徒と向き合う時間・自己研鑽の時間を確保するため、管理訪問等の指導助言により「教職員多忙化解消アクションプランⅡ」(改訂版)に基づく取組の推進を図ります。
- 学校全体の教育力向上を図るため、校長研修会等において研修を充実させ、校長によるチームとしての学校マネジメントが機能するよう支援します。
- 域内服務倫理対策会議等、様々な機会を捉えて管理職としての危機管理意識の向上や教職員の倫理観・使命感の高揚を図る取組を支援します。

「令和5年度学びの変革推進プラン」の実現を目指す

- 施策1：「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する
- 施策2：「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の力を最大にする
- 施策3：学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる
- 施策4：福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる教育」を推進する
- 施策5：人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる
- 施策6：安心して学べる環境を整備する